

学外

医療・福祉連携センター

## 授業 & 活動

医療・福祉連携センター 准教授  
宮野 澄男

# 長崎大学との 共修授業

全国的にも注目されている本学現代福祉学科と長崎大学医学部との共修授業が10月28日（水）、11月4日（水）、11日（水）と3回にわたって実施されました。この共修授業の目的は、学習背景の異なる長崎大学医学部と長崎純心大学とが医療系、福祉系の枠を超えて共修することを通して、将来の医療職と福祉職との多職種連携に繋がる資質を養うことにあり、本学現代福祉学科からは36人の学生が、長崎大学医学部医学科からは124人、同保健学科からは110人の学生が参加しました。



坂本キャンパスでの特別講義

10月28日の第1回目の授業は、扇町にある長崎純心大学地域連携センターと医学部がある坂本キャンパスをTV中継で結んで、本学の潮谷有二教授（長崎純心大学医療・福祉連携センター長）が「『地域包括ケアシステム』について」と題した特別講義を行いました。潮谷教授は、医学系の学生が多いということから随所に医療に関わるトピックを盛り込みながら、地域包括ケアシステム概念、その必要性を社会保障政策の動向も含めてわかりやすく解説され、医師などの医療職に就く者にとっても社会保障政策の理解は避けて通れないと結ばれました。

11月4日と11日は、長崎純心大学地域連携センターと長崎大学文教キャンパスをTV中継で結んで共修授業を実施しました。4日の全体授業では、松坂誠應長崎大学理事・副学長から地域連携センターにいる学生と文教キャンパススカイホールにいる学生に対して共修授業の意義を込めた応援のエールを送っていただきました。その後、事例ごとに両大学の学



文教キャンパススカイホールでの共修授業

生は4つの教室に別れてグループワークを実施しました。各教室とも事例の内容は異なりましたが、共通プログラムに沿って授業が進められました。事例に盛り込まれた患者・利用者の強みや弱みを情報シートから読み取り、患者・利用者にとって欲しいのかという視点からの達成目標について机を囲んで討論し合いました。さらに、他のグループで行われた議論の内容を共有するための発表も行い、次週までの課題を持ち帰りました。

次の11日の授業では、前週に話し合った目標を達成するにはどのような支援やサービス内容が考えられるか、社会資源、職種及びその役割をイラストや図を盛り込みながら模造紙にまとめ上げるグループワークを行いました。その後、各教室別に発表を行い、代表グループを選出しました。各グループの発表内容は短時間にもかかわらず精度の高いものができており、医療や福祉の視点を踏まえた共修授業にふさわしい内容となっていました。

最後に、TV中継を活用した代表4グループによる全体発表会を行い、長崎大学医学部の永田康浩教授、井口茂教授、本学潮谷有二教授の総括をもって、本共修授業は終わりました。初めて顔を



グループワーク（事例別検討）

合わせた学生たちには、最初は戸惑いがあったものの、真剣なグループワークを通してすっかり打ち解けた様子が見られました。両大学の学生による授業評価の結果を統計的に分析した結果、多職種連携に関わる複数の項目で一定の教育効果が見られることが明らかになりました。これらについては、長崎大学医学部と協力しながらさらに分析を進め、関係学会等で発表していく予定です。学習背景の異なる大学と学科の学生が机を並べて学習する共修授業の意義が達成されたことは何よりも大きな成果であり、両大学によるこのような取り組みを引き続き発展させていく必要があるということを指摘しておきたいと思えます。



グループワーク発表